

部局名	安全環境部	所属名	クリーン推進課	所属長名	巢立 弘志	電 話	483-1151 内線3220
-----	-------	-----	---------	------	-------	-----	-----------------

1. 事務事業の位置付け・概要（P L A N）

コード	3228		事務事業名称	廃棄物処理企画調整事業						短縮コード	経常	3228	臨時	3229			
予算区分	会計	01	一般会計		款	04	衛生費		項	02	清掃費		目	02	塵芥処理費		
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他					根拠法令等		廃棄物の減量及び適正処理に関する条例									
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）																	
「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により一般廃棄物に係る計画の策定，収集，運搬，処分を行う。市の固有事務となっている																	
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測						総 合 計 画 の 施 策 体 系	6本の柱（章）	03	第3章環境共生都市をめざして								
当初は、ごみを集めて衛生的に処理することが適正処理であったが、現在は、ごみの発生抑制やごみの削減を行いそれでも出たごみは、再使用あるいは再生利用し、残るものを適正処理する循環型社会に変換して行くことが求められている。							大項目（節）	02	第2節資源循環型社会の形成								
							中 項 目	01	1. 一般廃棄物								
							小 項 目	01	(1)ごみの減量化・リサイクルの推進								
								02	(2)環境に配慮した適正なごみ処理の推進								
							細 項 目	02	②ごみの減量の推進								
								03	③一般廃棄物処理基本計画の改定								
						実 施 計 画 の 計 画 事 業											
計画事業の位置付けの有無				☐	計 画 事 業 期 間		～			計 画 事 業 費		千円					

2. 事務事業の目的・指標・実績（D O）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	市民，事業者，一般廃棄物							
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成23年度に実際に行ったこと： 廃棄物行政にかかる企画・調整を行った。 廃棄物減量等推進審議会を行った。 10リットル可燃ごみ袋の導入を行った。 上高野第1次不燃物埋立用地の土地購入を行った。							
	※平成24年度に計画していること： 廃棄物行政にかかる企画・調整を行う。 廃棄物減量等推進審議会の開催。							
意図 （何を狙っているのか）	一般廃棄物処理基本計画に位置付けされた施策を実施することで、基本計画で設定した挑戦目標達成を目指す。このことにより、市民、事業者、市がそれぞれの役割によりごみの発生抑制、ごみの削減、再使用、再生利用等に取り組むことになる。							
ねらい（上位施策の意図）	入力対象外							
区 分				単位	2 2 年度	2 3 年度		2 4 年度
					実績	計画	実績	計画
対象指標	指標 1	人口	人	193, 274	196, 400	192, 884	199, 500	
	指標 2							
	指標 3							
活動指標	指標 1	ごみ排出量	t／年	55, 661	58, 366	56, 212	58, 826	
	指標 2							
	指標 3							
成果指標	指標 1	1人1日当り平均ごみ排出量	g/人日	789	833	796	808	
	指標 2							
	指標 3							
上位成果指標	指標 1							
	指標 2							
	指標 3							

コード	3228	事務事業名称	廃棄物処理企画調整事業				所属名	クリーン推進課
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☒ 改革・改善して継続			八千代市一般廃棄物処理基本計画について、平成15年に平成24年度を目標年次として策定していたが、焼却施設の基幹的整備改良事業を推進する必要があることや現状におけるごみ処理の目標値の見直しをするにあたり、新たに平成23年度から平成32年度までの10カ年を目標とした「八千代市一般廃棄物処理基本計画」を平成23年3月に策定した。この基本計画の柱となる「循環型社会への転換」を目指して、市民・事業者・行政の連携によるごみの減量化・資源化や環境負荷の少ない適正処理・処分の実施等、目標達成に向けた取り組みが必要であり、最大目標として「平成32年までの10カ年で市民1人1日当たりごみの排出量を100グラム減らす」を掲げた。このことから、今後ごみの減量化を図る為に、廃棄物処理手数料の見直しやごみの分別方法の細分化の為に、リサイクルセンターの整備を推進する。			
		☐ 手法プロセスの改革・改善						
		☒ 事業規模の拡大・縮小						
		☐ 統合・役割見直し						
	☐ その他							
☐ 廃止・休止								
☐ 事業完了								
☐ 現状のまま継続								
今後の方向性	⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			ごみ減量化・リサイクル推進等を図るためには、コストの増加が見込まれるため。	
				削 減	不 変	増 加		
		成 果	向 上	☐	☐	☒		
			不 変	☐	☐	☐		
低 下	☐		☐	☐				

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など									
その他プラスチックの分別回収の要望。リサイクルセンターの整備の要望。									

所属長コメント	平成32年度までに市民1人1日100グラムのごみ減量を最大目標としたことから、廃棄物処理手数料の見直しやごみ分別方法の細分化によるごみの減量化。また、リサイクルセンターの整備等によるリサイクル推進に効果的な施策を継続していかなければならない。								
評価調整委員会評価	☒ 改革改善して継続			ごみの減量化，資源化施策については，課題解決に努め順次推進すること。また，受益者負担については，慎重に検討すること。					
	☐ 手法プロセスの改革・改善								
	☒ 事業規模の拡大・縮小								
	☐ 統合・役割見直し								
☐ その他									
☐ 廃止・休止									
☐ 事業完了									
☐ 現状のまま継続									